

第2次「鶴岡市子ども読書活動推進計画」の趣旨

読書は、人の心を豊かに育み、生きていく上での良き友であり、先輩であり、教師ともなります。そんな読書を生涯にわたる人生のパートナーとするには、子ども時代の豊富な読書体験が大切であると考えます。読書は、学びであり、楽しみであり、知的好奇心を満たすものです。子ども時代に宝物となるような本との出会いがあれば、様々な要因で読書と離れる時期があったとしても、旧知の友と会いたくなるように読書を始める時が来るのではないかと思います。

一方、鶴岡市は長い歴史の中で多くの文学者や絵本作家、評論家等を輩出しております。そのことは、江戸時代に致道館で藩校教育が行われていた頃から、学問に対する思いの深い土地柄であったことも大きな要素であるのではないかと思います。その歴史と伝統を守るためにも、生涯にわたって読書に親しむことは、継承していくに値するものであると考えます。

また、第二次鶴岡市総合計画の第三章「学びと交流」の「地域における人づくり」の推進の中では、「市民の読書活動の奨励・推進」として、生涯にわたる読書活動を奨励し、推進することを明示しており、特に、子どもたちがより心豊かに生きていくために大切な、子ども時代の読書活動の充実に努めることを明示しております。

このたびの「第2次鶴岡市子ども読書活動推進計画」では、「市民の読書活動の奨励・推進」をめざし、第1次計画の取り組みの成果や課題を整理し、子どもたちが読書に親しみ、心豊かで、健やかに成長することを願って、鶴岡らしい取り組みを計画・実施していく計画を策定いたします。

計画では、子供の成長に合わせた読書のあり方を検討し、それぞれの年代にあった取り組みとします。取り組みには、子ども自身が取り組むこと、身近な大人が取り組むこと、読書活動を支援する立場で取り組むことなど、様々な立場で多くの市民が関わり取り組んでいけるような計画を目指します。